

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：阿保孝志朗	所属：青森県立青森聾学校	記録日：30年2月10日
キーワード：移動支援、学習支援、コミュニケーション、校外学習		
【対象生徒の情報】 ○学年 高等部2年（17歳） ○障害と困難の内容 ・両耳に補聴器装用。補聴器を装用した聴力は平均で40dBである。しかし、語音明瞭度が50%以下であるため会話の正確な聞き取りが難しい。 ・発音は不明瞭ではあるが、概ね聞き取ることができる。 ・口話、手話、指文字を併用して・コミュニケーションを行なっている。 ・言葉（手話も併用）だけの説明ではイメージしにくいことがある。 ・初めてのことや自信がないことはやりたがらない。		
【活動目的】 ・当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況 ○学習目標 ①確認する方法を持つことで学習や活動に安心感を持つ。 ②動画や画像で情報を補い、想いを伝え合う方法を広げる。 ③自分の考えや状況を整理して理解できる場面を増やす。 ・実施期間 平成29年4月～平成30年2月 ・実施者 阿保孝志朗 ・実施者と対象生徒の関係 担任		
【活動内容と対象児の変化】 ○対象児の事前の状況 学習面（数学の授業で） ・下学年の内容を学習している。 ・自分のペースで学べる学習は意欲的に取り組むことができている。 ・暗記することはできるが関連づけて考えるのが苦手である。 ・解法を忘れて数学の宿題をやってこない。家庭や寄宿舎で教えてもらう場合は解き方が違うと言って怒り出すことがある。 ・将来は福祉就労を目指している		
行動面 ・初めてのことや見通しの持てないことが苦手で失敗することが嫌い。 ・禁止されていることはきちんと守る。 ・情報リテラシー教室からSNSは危ないと思っていて、消極的であり保護者からのメールにも返信することがほとんどない。		

- ・クラスでは1人だけ違う教育課程で学んでいることや話し合い活動の内容が理解できないことなどから自己肯定感が低い。
- ・自己肯定感の低さから「どうせできない」と思うことが多い。
- ・不安が強いため1人で出かける経験はほとんどない。
- ・買い物等でコミュニケーションが必要なときは保護者に依頼することが多い。
- ・家族や学校以外の人と関わる機会が少ない。

本生徒は高等部卒業後、自宅から通勤できる就労継続支援事業所での勤務を目指しており、公共交通機関を活用できるようになることが望ましい。現在、帰省・帰舎はバス・鉄道を利用しているが、そのほとんどを友達と一緒に利用しており、単独での利用がない状況である。

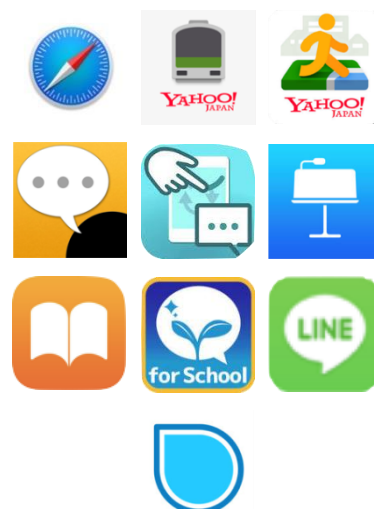
○活動の具体的内容と対象児の事後の変化

活動①1人で公共の交通機関を活用してでかけられるようになる

※ 1人での移動や健聴者とのコミュニケーションする必然性を作るために「バスに乗って街に出かけよう」を計画したが、不安の強さから強く拒否する様子が見られたため、一つ下の学年の生徒Fと一緒に実施した。

○使用したアプリ

- ・目的地の情報を調べるために「safari」
- ・経路の確認のために「Yahoo 乗り換え案内」「Yahoo Map」
- ・音声を視覚化するために「UD トーク」「SpeechCanvas」
- ・しおりやタスクリストの作成、活動のまとめるために「Keynote」
- ・「Keynote」で作ったマニュアルやタスクリストのPDFを確認するために「iBooks」
- ・安着確認や気持ちを伝えるために「Bytalk for School」「LINE」
- ・振り返りで思考を視覚化するために「SimpleMind+」



ミッション1～青森市民図書館に行こう～

夏休みが目前だったこともあり帰省の際に使用している駅周辺にある市立図書館を目的地に決めた。

○移動について

- ・学校からバス停までは経路を確認してから出発し、途中で確認しなくても到着することができた。
- ・到着時間が少しずれていたこと、バス停に掲示されている時刻表に土日祝の時間と混同してしまったことなどからバスを一本乗り過ごしてしまった。30分待って次のバスに乗り移動した。バス停を降りてからは駅周辺ということで、土地勘があったので地図を見なくても図書館にたどり着くことができた。

- ・本を借りたことが嬉しすぎて図書館の目の前にあるバス停で本を読みだしてしまう。F が帰りのバス停ではないことに気づき「Yahoo 乗り換え案内」で目的のバス停までの経路を確認して移動し、乗ることができた。下車したバス停からは帰りの経路がわかっているので無事に学校に戻ることができた。学校に戻って感想を聞くと両手を挙げながら、無事に帰ってこられたことを喜んでいた。



次のバスを探す様子



帰りのバスを探している

○コミュニケーション

- ・丁寧な言葉遣い（口話）で「図書カードを作りたいです」と伝えることができ、学生証を見ながら必要な項目を記入することができた。記入に関しては用紙に記入すべき項目があることなどから説明を聞かなくても書くことができていたが、実家の住所を書いたところで青森市（寄宿舍）の住所を書く必要がある（本生徒、F は寄宿舍生）と説明され、寄宿舍の住所、電話番号がわからなかったため記入することができなかった。同行していた担任に聞きに来たが、担任もわからないことを伝えると少し2人で相談した後に iPad を取り出し、「Safari」で学校のホームページを調べることで寄宿舍の住所、電話番号を記入することができ図書カードを作ることができた。（完全に聞き取ったわけではないが、係りの方が本生徒にとって比較的に聞き取りやすい話し方の女性だということや、初めての経験だったこともあり

「UD トーク」「SpeechCanvas」を使用しなかった。）



図4 調べながら記入している

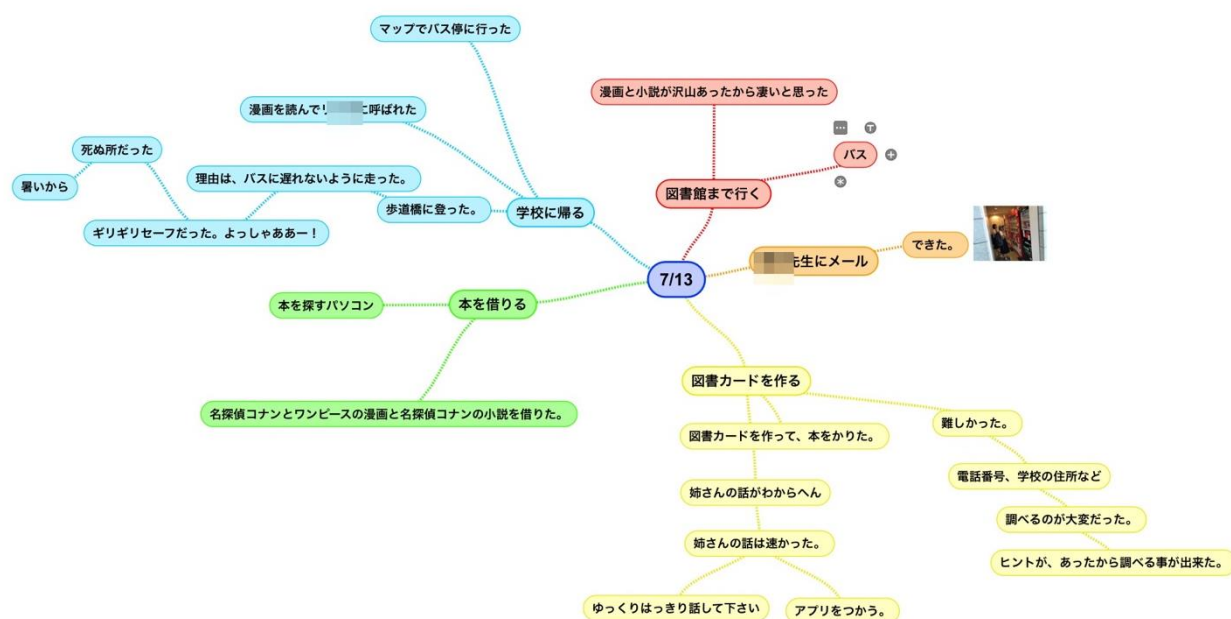
- ・本を選んで借りることはできたが、延長や返却について説明されているときには、なんとなく相槌を打っているようであった（後で確認すると理解できていなかった）。
- ・学校で待機している担任に「Bytalk for school」の位置情報や写真での報告やこれから帰るという連絡をすることができた。

○振り返り

- ・担任が撮影した写真とタスクリストを見ながら事後学習を行なった。タスクリストごとに「Simple Mind+」に感想や反省をまとめた。担任が写真の場面の気持ちや行動の理由を質問することで自分の考え、反省、改善点をどんどん書き込むことができた。



図書館から送ったメッセージ



- ・学校の住所がわからなかったが「Safari」で調べ、図書カードを作ることができたと書かれていた。
- ・話が早くて聞き取れなかったことやその対策について書かれていた。
- ・帰りのバス停を間違えて大変だったことが書かれていた。

ミッション2 〜ワ・ラッセに行こう〜

安心して活動できるように青森駅を拠点としてエリアの拡大を図り、市立図書館よりも少し遠いねぶたの家ワ・ラッセを目的地に決めた。

○移動について

- ・前回の苦い経験を覚えていてバス停に着くなり「iBooks」にあるしおりとバス停の時刻表を確認することができた。
- ・青森駅周辺ではあるがほとんど行ったことがないエリアであるため、目的地までは地図で確認してから歩いていた。



念入りに確認している

- ・計画通りにできて完璧である(移動に関して)と書かれている。
- ・コミュニケーションは担任に促されてから UD トークを使用した為、書きたくなかったようだ。
- ・メールの返信のチェックについてはマインドマップには記入していないが、意識しているようだった。
- ・前回ほど喜ぶ様子は見られなかったが、無事に終えてホッと安心している様子だった。

ミッション3 ～ショッピングセンターに行こう～

3回目ということで乗り換えができるようになることを目標に、バスを乗り換える必要があるショッピングセンターを目的地として実施した。また、iPadだと大きいため携帯していつでも確認することが少し面倒であることや日常での活用を目指し生徒所有のiPhoneに変更して実施した。

○移動について

- ・事前に調べた下車する乗り場の場所や、次の乗り場の番号などをまとめたしおりを写真データにしたものを確認し、Fさんと相談しながらバスを乗り継いで目的地のショッピングセンターに到着することができた。
- ・下車するバス停のアナウンスがあると誰よりも早く「次降ります」のボタンを押すことが出来た。
- ・前回同様帰りのバス停を確認してからショッピングセンターに入店した。
- ・帰りの乗り換えでは調べた乗り場が間違っていたことが発覚したが、その場で調べ直して無事に正しい乗り場から乗車することができた。



調べたバス停の地図

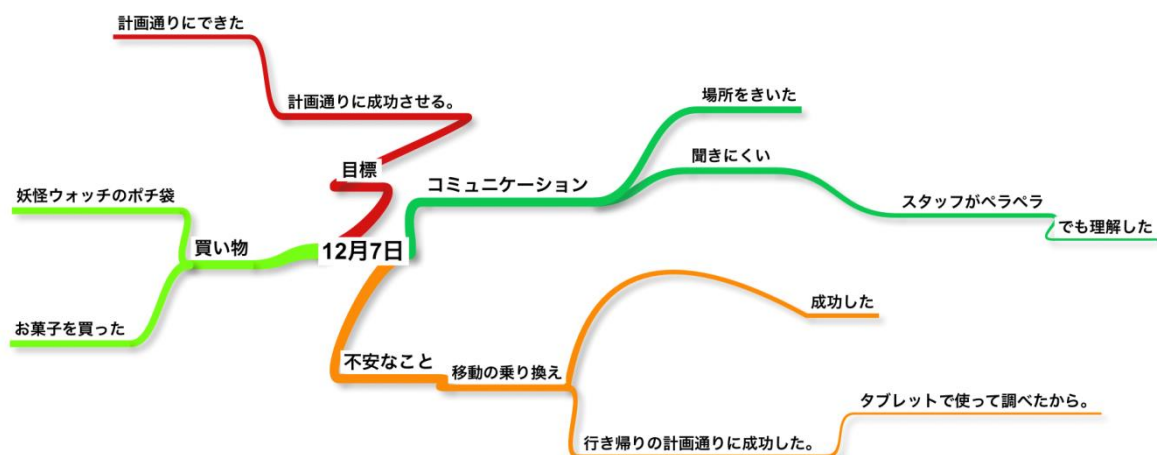


○コミュニケーション

- ・行きたかった店の場所がどうしてもわからなかったので、ほかの店の店員に自分から聞くことができた。この時は「UDトーク」を使わなかったが、話の内容がわからなければ使えば良いという安心感からか物怖じすることなく聞きに行く様子が見られた。
- ・別行動の際に集合場所や時間についての変更を「LINE」で連絡を取り合う事ができた。

自分が行きたい店の場所を
聞いているところ

○振り返り



- ・乗り換えが不安であったが事前に調べていたため大丈夫だったと書かれていた。
- ・帰りの会ではもう大丈夫と胸を張っていた。

活動②解き方を忘れたら iPad で確認しよう

※ 数学の宿題を保護者や寄宿舎指導員に教えてもらいながら解いてくることが多く、その際に「分からなかったから喧嘩になった」とよく話していた。これは同じ方法で支援できていないため生徒が混乱して不適応行動を起こしていると思われた。そのため、同じ説明をいつでも確認できるようになれば自分一人で、あるいは保護者や寄宿舎指導員に教えてもらう場合にも安心して取り組むことができると考えた。そこで、忘れてしまった場合に備え、新興出版社の「ホントにわかる数学中学1年」のYoutube 動画を使って確認できるようにした。しかし、たまにある字幕の誤変換や見たい場面をうまく表示できないことなどから家庭で使う様子は見られなかった。そこで、活動①での活用と同様に「Keynote」を使用してノートを作ることで連続写真のように確認できるのではないかと考えた。

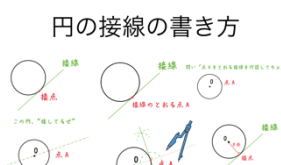
○使用したアプリ

- ・ 解法や画像の検索のために「safari」
- ・ 画像を用いたノート作りに「Keynote」
- ・ 「Keynote」でまとめたノートの確認用に「iBooks」
- ・ 「Keynote」でまとめたノートに付箋を貼ってテスト勉強に「ACFlipPro」

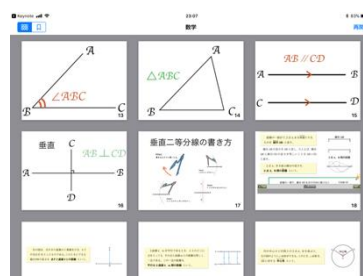


○画像を用いたノート作り

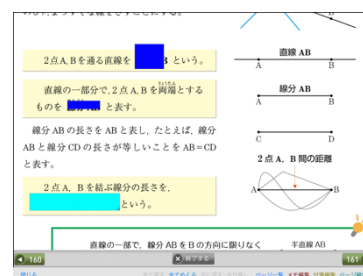
- ・板書や「Qikeru：中学生のための無料学習サイト <http://media.qikeru.me>」のまとめ画像や板書を「Keynote」に貼り付けてノートを作成した。手順ごとに順番に並べる活動をするので自分でまとめたという達成感を味わうことができた。
- ・確認する際に「Keynote」のままでは画像がずれてしまい、修正することに注意が向いてしまうことがあったので、PDFに変換して「iBooks」で確認することにした。授業で確認の問題を解くときは、教科書や手書きのノートよりも「iBooks」を使用する事が多かった。
- ・「iBooks」で使用しているPDFデータを「ACFlipPro」で開き、公式や用語などに付箋を貼り単語カードとして活用した。数学は苦手教科で自分からはなかなか勉強しないが、この方法であれば取り組む様子が見られた。



「Keynote」でまとめたノート



確認用の「iBooks」



付箋を貼った「ACFlipPro」

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・写真つきマニュアルなどで確認することや離れていても連絡できる方法（安心するための方法）を持つことで自信を持って行動することができるようになったのではないかな。
- ・自分の考えをマインドマップで視覚化することで、関連づけて考えられるようになってきたのではないかな。
- ・自分でまとめ、確認することに慣れ、確認することで正解を導き出せるようになったのではないかな。

○エビデンス（具体的な数値など）

【安心感について】

- ・まとめを見ながら確認することで、迷うことなくバスに乗車・乗り換えをし、初めての場所にたどり着くことができた。

- ・校外学習のマインドマップの感想を見ると「計画通りにできた」「完璧」と書かれており自信を持っている様子が見える。

- ・数学の2学期末テスト（中1数学：平面図形を中心とした問題を数学担当が作成）において、はじめは普通に実施し49点であった。テスト終了後に問題と解答用紙を回収し、次の日に同じ問題を

「Keynote」のまとめを見ながら実施したところ、88点に向上した。情報を活用することで課題を解決できるようになったと思われる。

【経験の広がりについて】

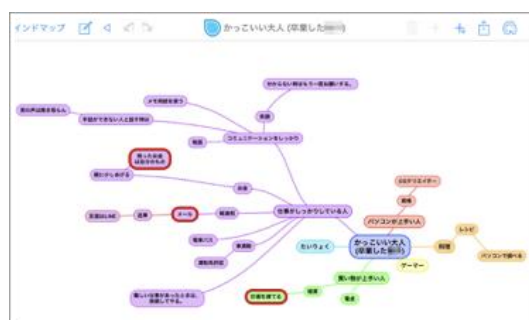
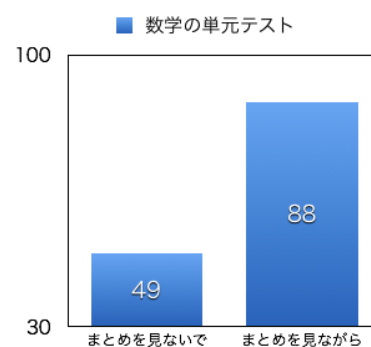
- ・学部朝会での発表や総合的な学習の時間の発表など様々な発表の場で、「SimpleMind+」や「Keynote」考えを整理したものを発表することができるようになった。

- ・自分から謝る事が苦手であったが、Fさんと喧嘩をした際に自分の気持ちをマインドマップに書くことで気持ちを整理することができ、自分から謝ることができた。

- ・卒業後の望ましい自分についてマインドマップで考えることができた。特に意識したい項目（「計画を建てる」「メール」「残ったお金は自分のもの」）は赤で強調して自分で意識づけていた。
- ・冬休みに行なわれた産業現場等における実習の報告や冬休みの様子を伝えられるようになった。



完璧に出来たと書かれた振り返り



卒業後の望ましい自分についての
マインドマップ

○その他のエピソード

- ・ iPad 等がある時は普段の何気ない会話を
する際にインターネット検索した画像を
見せる事が増え、自分の話の情報を補うた
めに活用することができている。



実習の報告・冬休みの様子

【今後の見通し】

- ・ 移動に関しては来年度の産業現場等の実習で公共の交通機関を活用し、一人で通勤し実習できるようにしていきたい。
- ・ 卒業学年なので地域の好きなところにいけるようになって欲しい。
- ・ 「Keynote」での教科のまとめを他教科でも実施、主体的にまとめる経験を増やす。わからない時に見返すことができるような「わからないことマニュアル（仮）」を作っていく。
- ・ SNS に慣れてきたので他人と良い関係でいられるようにリテラシーを学んでいく。

わからなくて不安になることやトラブルが起きても「解決できるから大丈夫」と考えることができるようになることや不安で諦めていたことにチャレンジできるように今後とも支援を継続していきたい。